

## テーマ 「2021年度 標津高校の環境活動と防災減災活動」

学校名 北海道標津高等学校

学校長 森 田 泰 史

担当者 鈴 木 祐 二

### 1 本校のESDの特徴

本校は、「持続可能な社会の形成者となるための資質・能力を身につける」ことを学校教育目標と定め、教育課程編成においてユネスコスクールとしてSDGsやESDの趣旨を大切にするとともに、地域教材の有効活用に努めることを方針としている。特にSDGsに関わる研修や教育活動を実践し、環境活動や防災減災活動に積極的に取り組んでいる。

### 2 活動・全体計画（2021年度）

	環境活動	防災減災活動
4月		防災研修報告（町役場）
6月	野付巡検 環境学習	防災研修報告 出前授業（川北中学校）
8月		防災研修（岩手・宮城・福島）
10月	知床ゴミゼロ運動 ポー川巡検 歴史文化学習	1日防災学校・防災研修報告 パネルディスカッション
11月		防災研修報告 出前授業（標津小学校） 標津町オリジナルHUG 出前授業（標津中学校）
12月		標津子どもキラリ塾 イザ！カエルキャラバン！補助 避難所運営シミュレーション オリジナルHUG up date

### 3 活動事例

【環境活動】生徒会が中心となって取り組む「知床ゴミゼロ運動」が広がりを見せている。2019年度羅臼高校生徒会と実施、2020年度は、町内小中学生と実施した。コロナ禍であるため2021年度は、知床地域ユネスコスクール3校に呼びかけ、それぞれの学校で実施した。本校は、10月に野付半島で行う学校行事の強歩遠足と同時に取り組み、地域の自然環境を楽しみながら、「知床ゴミゼロ運動」を実施した。また、6月に総合的な探究の時間で取り組む野付巡検では、SDGsの事前学習を行い、当日は、野付崎にて海洋漂着物を回収、海洋汚染の現状を学習した。秋のポー川巡検では、地域に根ざすアイヌ文化の学習として、ポー川巡検を行った。古くから住み続けられる土地を歴史文化の側面から学習することができた。



【防災減災活動】標津町とともに活動を行っている。2021年度は、完成した「標津町オリジナル HUG」や「防災研修」を町へ還元し、本校で推進している「地域循環型防災教育」に取り組んだ。町内の中学校での出前授業では、防災研修の報告とパネルディスカッション、さらに「標津町オリジナル HUG」を用いた避難所運営ゲームを行い、小学校での出前授業では、防災研修の報告を行った。また、地域の青年団体（標津みらい塾）と協力し、社会教育分野での防災減災活動に幅を広げた。生徒会（ユネスコ局）では、長期休業時に東北地方の被災地研修へ赴き、自然災害への備え、避難所運営に関する研修を行い、本校はもとより地域へ研修を還元し、防災減災教育の輪を広げた。



#### 4 成果と課題

野付巡検より海洋環境問題を提起し、プラスチック汚染の現状について ESD の視点に立った活動を行い、SDGs の達成目標を意識した探究を行うことで、生徒の主体的な学びにつながった。また、異文化理解のためのポー川巡検では、高校生ガイドが1年生の巡検の指導を行い、生徒が互いにアイヌ文化の理解を深め、豊かな自然環境を学習することができた。

「知床ごみゼロ運動」を知床地域のユネスコスクールに広めるために、各校で現在取り組んでいる環境活動に「知床ごみゼロ運動」をあわせたことで生徒の主体的な活動につながった。今後の課題として、生徒同士の交流の場として知床生徒会サミットを設け、活動の報告やさらなる活動の進化をディスカッションする場を提供することが、「知床ごみゼロ運動」の今後の発展につながると考える。また、自然科学部での海洋プラスチックの研究と合わせ、知床地域の環境活動が評価され、全国環境ユースネットワーク全道大会で「高校生が選ぶ特別賞」に選ばれ、全国大会へ出場を果たした。

防災減災活動は、町との関係を構築し、互いの連携を密に取り組みができた。特に、「地域循環型防災教育」の構築のため小中学校と高校が連携した防災教育が実現した。地域の青年団体との連携も今年度は強化されたことにより、社会教育への防災の広がりとなったことも成果の一つである。担当した生徒は、防災減災活動で体験したこと、感じたことを伝える過程でコミュニケーション力を高め、相手を思いやり伝える気持ちを育むことができた。今年度の令和3年度防災未来賞ぼうさい甲子園にて「フロンティア賞」を受賞した。